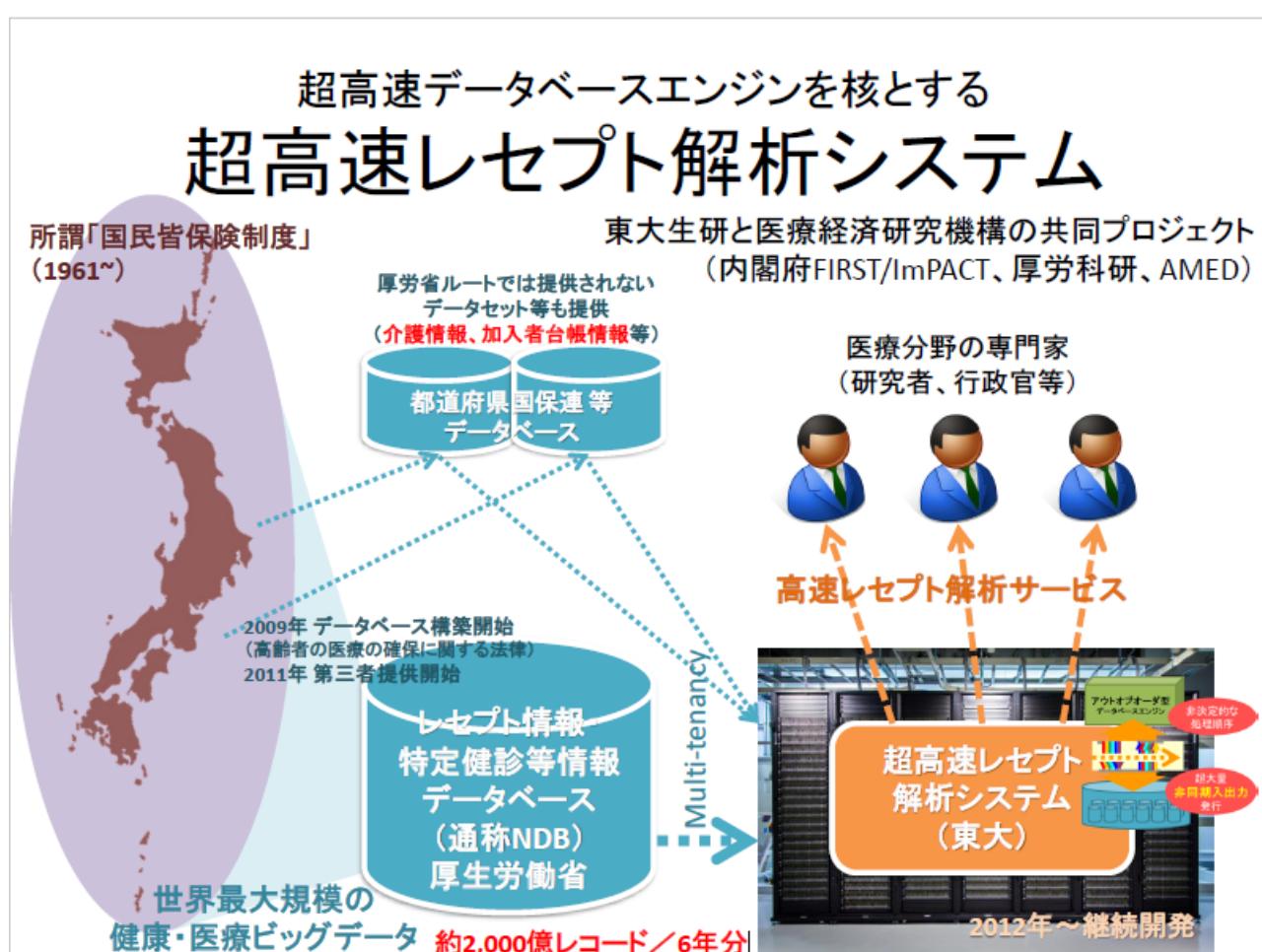


一社) 保健医療情報研究機構との 共同研究について

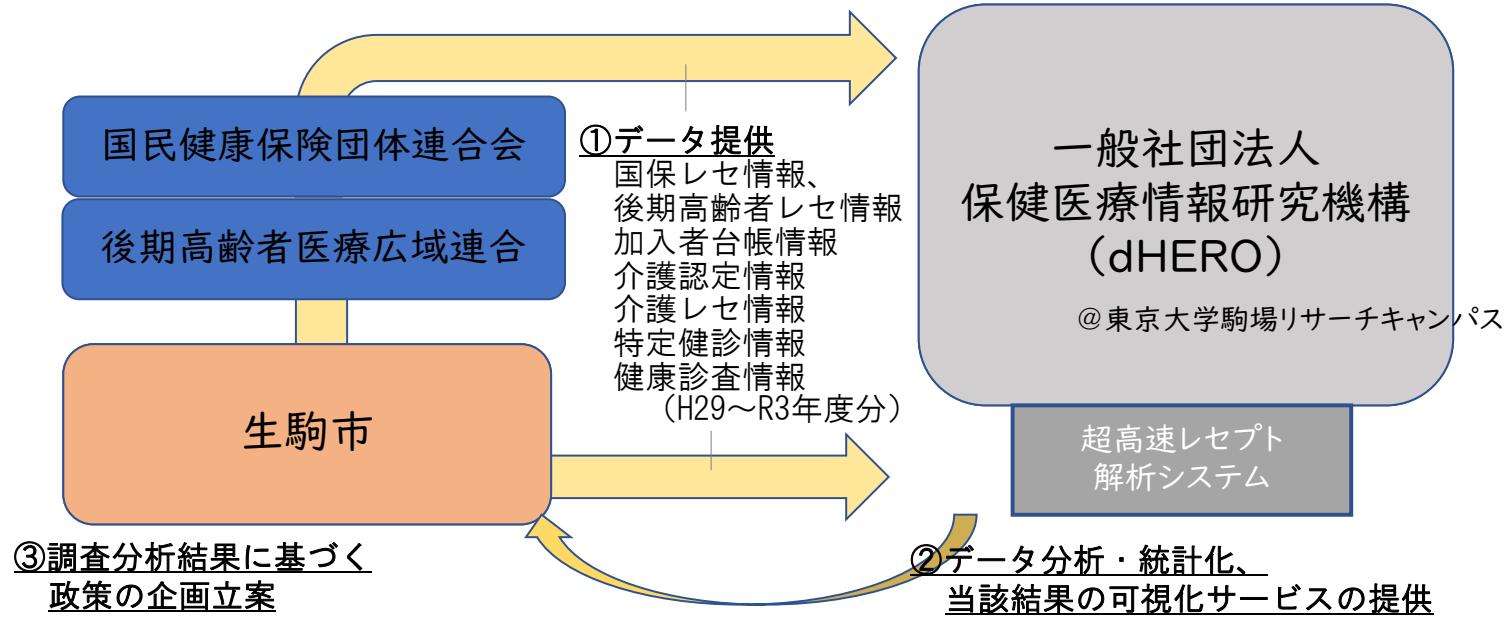
令和7年7月1日（火）

一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構
研究部 担当部長(特別主席研究員) 満武 巨裕
京都府立医科大学 大学院学研究科 総合医療・地域医療学
講師 関本 美穂



共同調査分析の概要

- 台帳情報・レセプト情報等のビックデータの分析により、地域の医療介護に係る現状・課題を明らかにするとともに、効果的・効率的な医療連携や医療介護連携等の取組を、データに基づき検討・推進する。
- dHEROと共同調査分析に係る覚書を締結。順次データを提供し、分析を進めていく。



2

解析アプリの目的と活用方法

		目的と活用方法
1	疾病別通院動向	<ul style="list-style-type: none">被保険者の通院状況(延べ患者数、日数、点数)、他の市町村への通院状況を地図に可視化する保険診療の利用状況、患者の流出、地域連携の把握に活用できる
2	在宅医療の動向	<ul style="list-style-type: none">被保険者の在宅医療の利用状況(延べ患者数、日数、点数)、他の市町村への通院状況を地図に可視化する在宅医療の利用状況、患者の流出、地域連携の把握に活用できる
3	介護利用動向	<ul style="list-style-type: none">被保険者の介護サービスの利用状況(延べ回数)、他の市町村の施設の利用状況を地図に可視化する介護サービスの利用状況、地域連携の把握に活用できる
4	後期高齢者医療制度 被保険者の死亡件数の動向	<ul style="list-style-type: none">医療機関での死亡患者数を地図に可視化する地域における看取りの状況の把握に活用できる
5	特定健診の新規・継続等の受診	<ul style="list-style-type: none">特定健診の新規・継続受診者数(率)、脱落者数(率)を可視化する特定健診受診、脱落率を地域別、時系列、性別、年齢別に把握できる
6	特定健診の疾病別受診動向	<ul style="list-style-type: none">疾患別、医療機関受診歴有無別に、特定健診受診者、未受診者数を地図に可視化する特定健診の受診状況の把握に活用できる
7	特定健診受診と医療機関受診の有無	<ul style="list-style-type: none">医療機関受診歴、高血圧、高脂血症、糖尿病の服用歴の有無別に、特定健診受診者、未受診者数を地図に可視化する特定健診の受診状況の把握に活用できる

3

医療費等分析（見える化）ツール活用支援事業における ツールの活用事例

令和7年3月

岐阜県健康福祉部国民健康保険課

岐阜県国民健康保険団体連合会

医療経済研究機構

東京大学生産技術研究所

～はじめに～

国民健康保険は、自営業者だけでなく、失業・病気・高齢などの様々な事業により被用者保険から脱退した方も加入する医療保険における最後のセーフティーネットと言えます。

そのため、他の医療保険よりも、加入者の年齢構成が高く医療費水準が高い、所得水準が低い、保険料負担が重い等の構造的な課題があります。加えて、市町村が運営することから、財政運営が不安定になるリスクが高い小規模保険者の存在も課題となっていました。

このような中、国保制度の創設以来の大改正により、平成30年度から県と市町村が国保を共同運営することとなり、県は財政運営の責任主体として、安定的な財政運営や効率的な事業の確保等について中心的な役割を果たすこととなりました。

平成30年3月に、県は制度改正により新設された国保法第82条の2の規定に基づき、市町村との議論も踏まえ「県国民健康保険運営方針」を策定しました。

本事業は運営方針策定を契機に、医療・介護・健診のデータを一体的に捉えて分析し、医療費水準の地域差要因を見える化する事業として、同年10月より岐阜県国民健康保険団体連合会へ委託して実施し、今年度で7年目を迎えております。

近年、市町村国保の被保険者数は年々減少する中、一方で医療の高度化や高齢化などにより、一人あたり医療費は増加の一途たどっており、健全な財政運営や被保険者間の負担の公平化などを目的とする保険料水準の統一化のためにも、医療費適正化や平準化が重要かつ喫緊の課題となっております。

医療費水準格差の要因は多岐にわたるため、本事業の成果で全てを詳らかにし、平準化に資する保健事業等の諸施策を直ちに編み出すことは難しいですが、これまでの事業実績の中で、県下の市町村における分析事例を集積した成果として、その一部を今回取りまとめました。

なお、本分析ツールにおいては、医療費水準格差の要因分析のみならず地域包括ケアの視点で地域の社会資源と連携を深めるための現状分析が出来るメニューもあり、事例を併せて掲載しております。今後の保健事業等の諸施策を検討するための一助となれば幸いです。

岐阜県健康福祉部国民健康保険課

【事例 1】

知りたいこと：岐阜県における医療供給体制の現状を把握するため、住民の医療機関への受診動向を確認したい。

1. 対応する帳票メニュー

- 「[2101] 疾病別通院動向（市町村単位）」
- 「[2103] 疾病別通院動向（医療機関単位）」

2. 分析ツール（re:Health）の操作手順

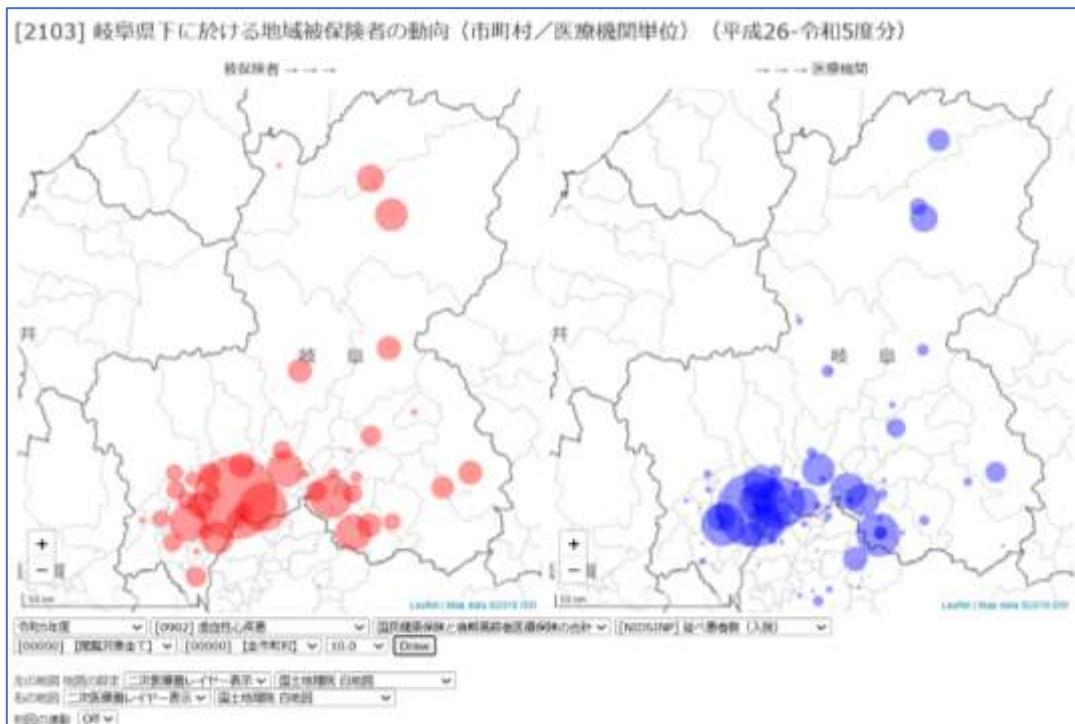
- 「メインメニュー→「アプリ No [2101] または No [2103]」を選択（クリック）
- 「年度」選択欄で直近の状況を見たい場合「令和 5 年度」をプルダウンで選択
- 「疾病」選択欄で高額医療の状況を見たい場合は「脳血管疾患（脳内出血、脳梗塞等）、虚血性心疾患」等をプルダウンで選択、基礎疾患の状況を見たい場合は「糖尿病、高血圧」等をプルダウンで選択
- 「集計する値」選択欄で高額医療の状況を見たい場合は「延べ患者数（入院）」をプルダウンで選択、基礎疾患の状況を見たい場合は「延べ患者数（外来）」をプルダウンで選択
- 「左側マップ（住民の状況）の市町村」選択欄で県全体を見たい場合は「全市町村」をプルダウンで選択、当該市町村の状況を見たい場合は「当該市町村」をプルダウンで選択
- 「右側マップの市町村（住民の受診状況）」選択欄で県全体を見たい場合は「全市町村」をプルダウンで選択、当該市町村の状況を見たい場合は「当該市町村」をプルダウンで選択
- 「Draw」ボタンをクリック

※ 操作方法の詳細については、令和 6 年 11 月 13 日～12 月 23 日開催「医療費等分析（見える化）ツールの活用支援事業における市町村等対象（5 圏域）研修会及び意見交換会」で提供している資料 No.2 「「岐阜ヘルスアップ（分析ツール）」の操作及び活用方法」を参照

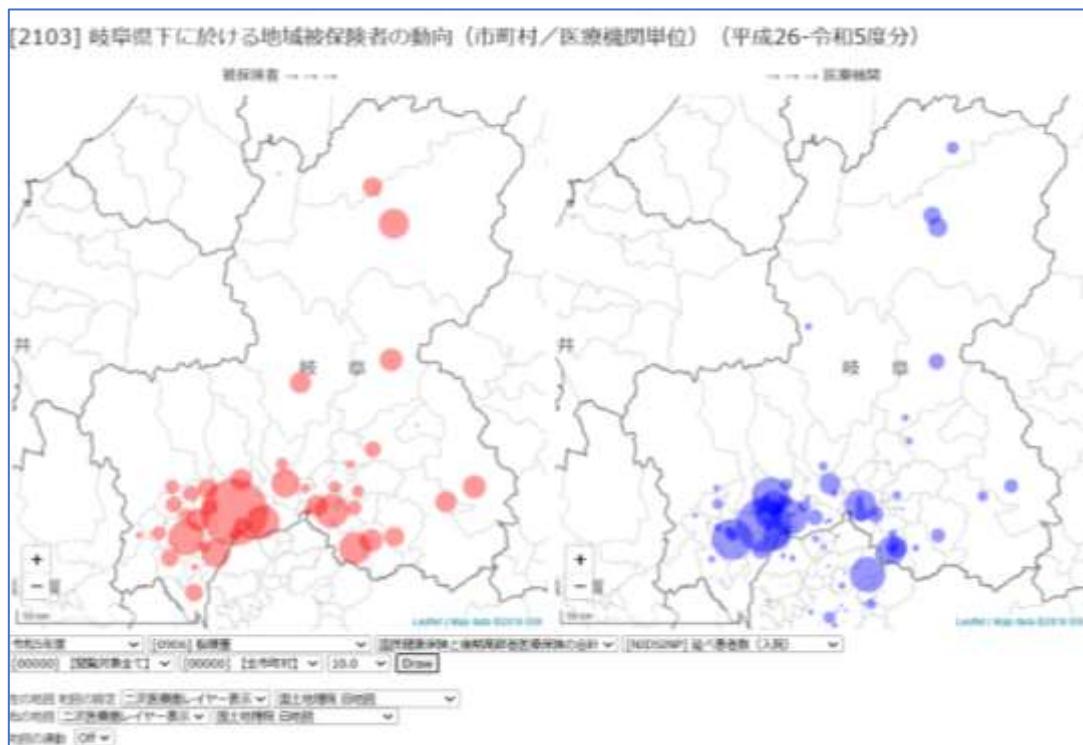
3. 知りたいことに対する結果

＜画面イメージ＞

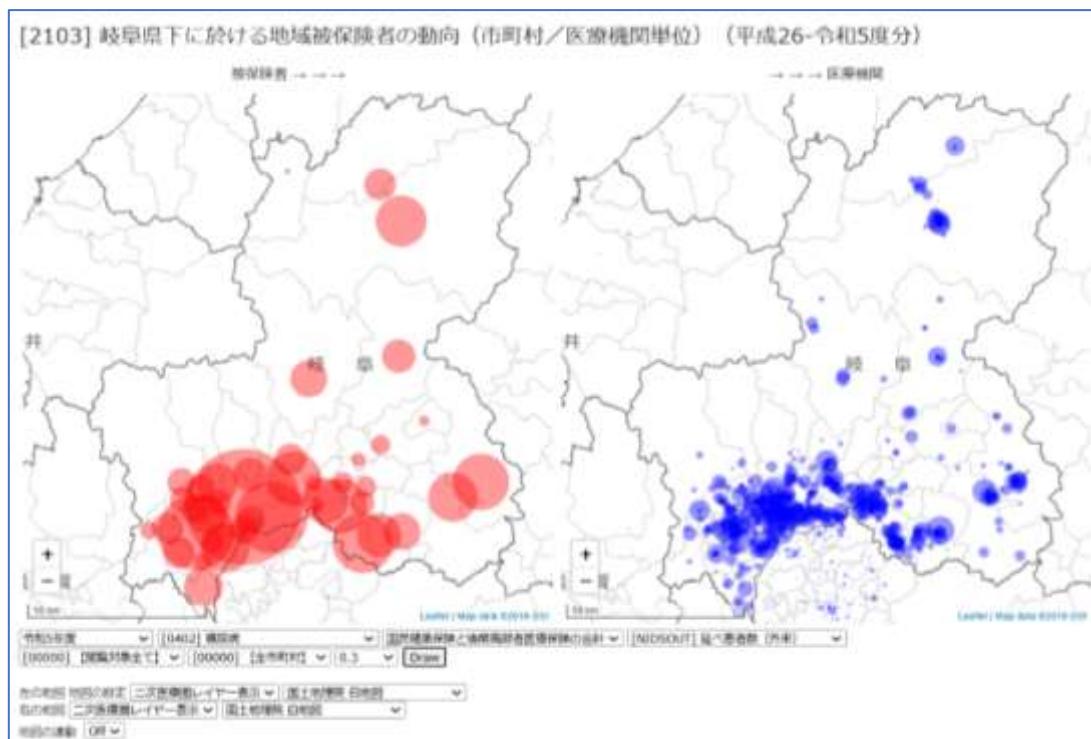
基礎疾患由来の高額医療と思われる疾患（虚血性心疾患）における入院の受診動向



基礎疾患由来の高額医療と思われる疾患（脳梗塞）における入院の受診動向



基礎疾患（糖尿病）における外来の受診動向



上記の図で、右側の岐阜県マップにより表示された「住民が受診している医療機関の分布」を見る
と、岐阜県においては高額な治療も基礎疾患の治療も岐阜県内の医療機関に国保・後期高齢者のほとん
どの被保険者は受診している。各圏域に患者数の多い医療機関がある。特に岐阜市を中心に岐阜圏域に
は医療機関が多くある。また、愛知県との県境にも患者が多い傾向がある。

岐阜県における医療供給体制は、現時点としては整備されているのではないかと考察できる。

4. 活用した場面（事例）

- ・岐阜県における医療計画の参考資料として使用した。
- ・「岐阜県国民健康保険運営方針」の現状把握の分析に使用した。 等

【事例 2】

知りたいこと：医療供給体制の変化（関ヶ原病院が診療所に変わった）にともなう住民の受診動向の変化を確認したい。

1. 対応する帳票メニュー

「[2103] 疾病別通院動向（医療機関単位）」

2. 分析ツール（re:Health）の操作手順

「メインメニュー→「アプリ No [2103]」を選択（クリック）

→「年度」選択欄で「平成 27 年度」（関ヶ原病院として運営）をプルダウンで選択

→「疾病」選択欄で高額医療である「虚血性心疾患」等をプルダウンで選択

→「集計する値」選択欄で「延べ患者数（入院）」をプルダウンで選択

→「左側マップ（住民の状況）の市町村」選択欄で「関ヶ原町」をプルダウンで選択

→「右側マップの市町村（住民の受診状況）」選択欄で「全市町村」をプルダウンで選択

→「Draw」ボタンをクリック

→同条件で「年度」選択欄を「平成 29 年度」（関ヶ原クリニックに施設基準が変更）をプルダウンで選択

→平成 27 年度と平成 29 年度の前後を比較

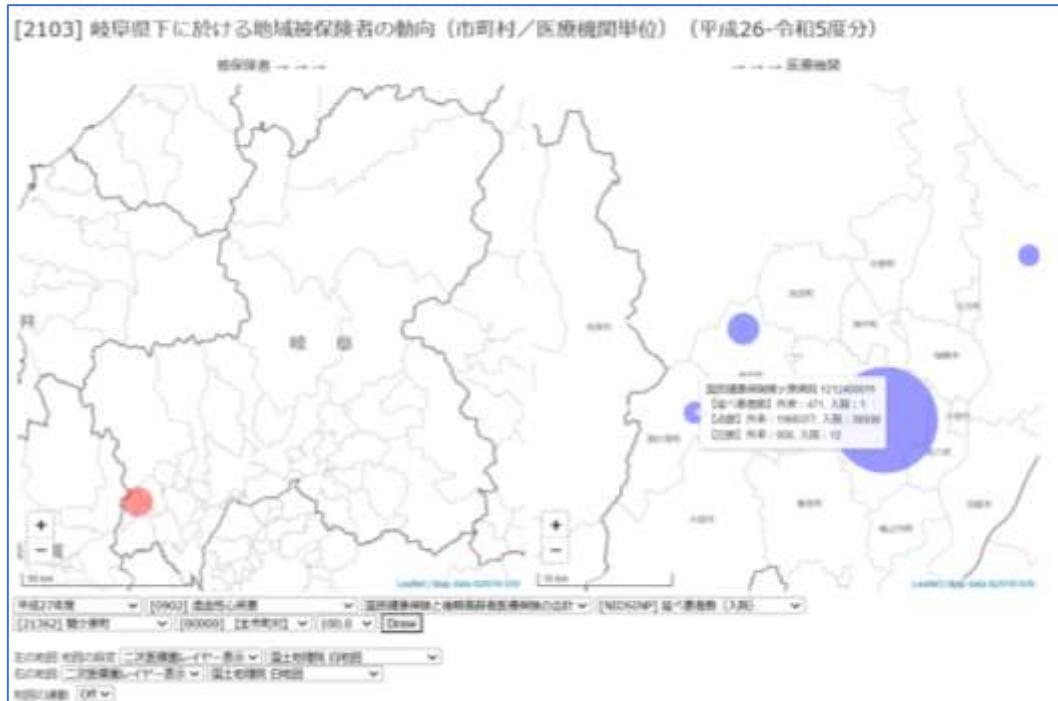
→必要に応じて、右の地図を「国土地理院 白地図」から「Google Map Street」にプルダウンで変更

※ 操作方法の詳細については、令和 6 年 11 月 13 日～12 月 23 日開催「医療費等分析（見える化）ツールの活用支援事業における市町村等対象（5 圏域）研修会及び意見交換会」で提供している資料 No.2 「岐阜ヘルスアップ（分析ツール）」の操作及び活用方法」を参照

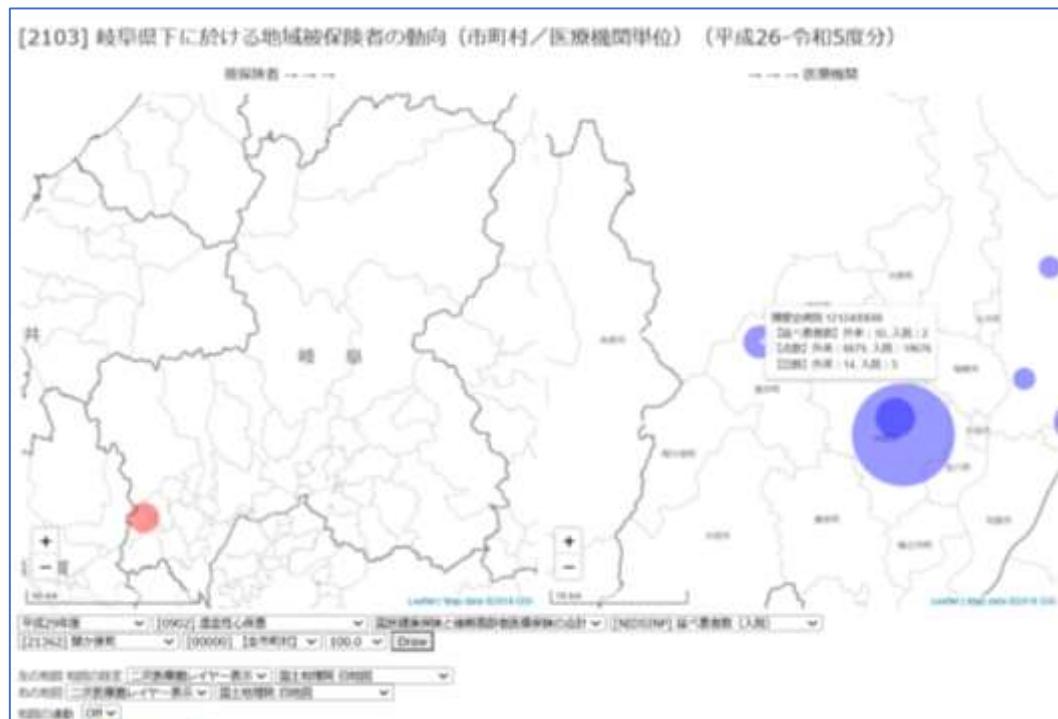
3. 知りたいことに対する結果

＜画面イメージ＞

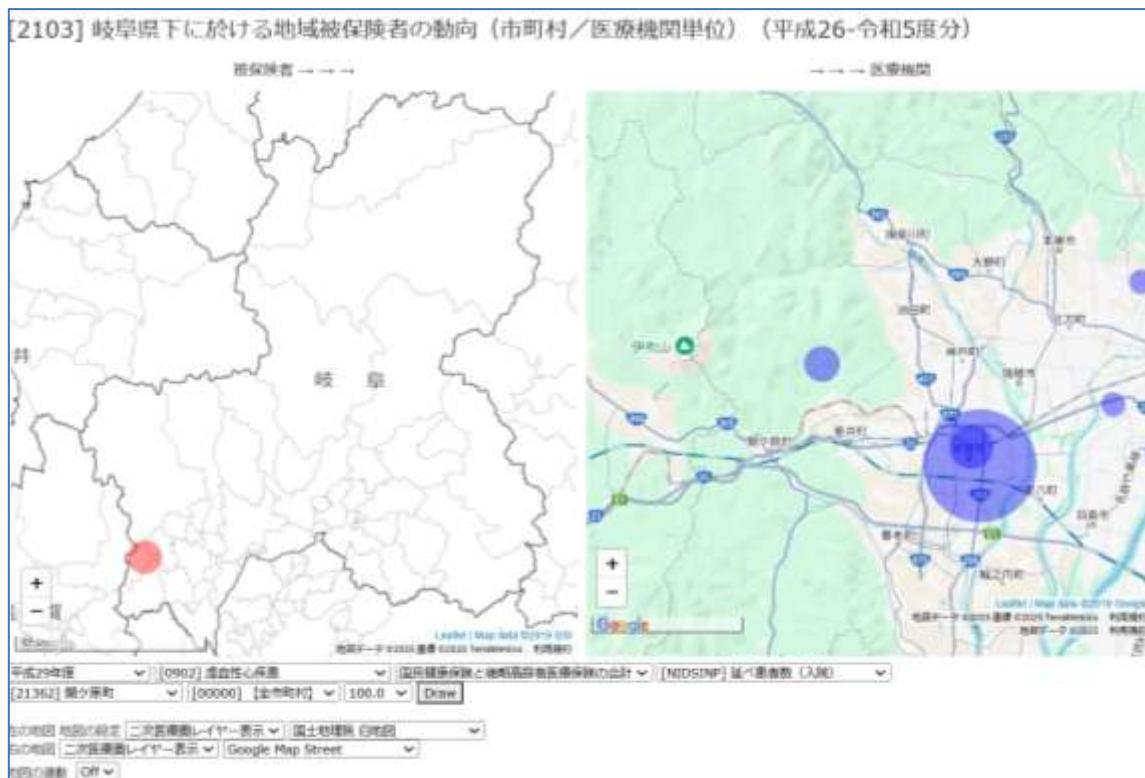
平成 27 年度時点で関ヶ原町での高額医療と思われる疾患（虚血性心疾患）における入院の受診動向



平成 29 年度時点で関ヶ原町での高額医療と思われる疾患（虚血性心疾患）における入院の受診動向



平成 29 年度時点で関ヶ原町での高額医療と思われる疾患（虚血性心疾患）における入院の受診動向
※ 右側のマップを Google Map Street で表示



上記の図で、平成 27 年度時点で虚血性心疾患で受診していた関ヶ原病院の入院患者の表示が平成 29 年度では消え、周りの医療機関へ移動していることが推察される。（※ 経年比較が可能）

垂井町に所在する「博愛会病院」の入院患者についてはあまり変動がないため、大垣市に所在する「大垣市民病院」等へ受診していることが推察される。道路や電車の路線等を確認すると「住民の通いやすさ」が影響があるのでないかと考察できる。

医療供給体制の変化が医療費へ大きく影響することを把握することができた。

4. 活用した場面（事例）

- ・医療費水準地域差要因分析の一環で、関ヶ原町の医療費について高い分類から低い分類へ変動があったため、その要因を分析するにあたって、関ヶ原町における医療費の増加・現象の要因分析に使用した。等

【事例 3】

知りたいこと：新型コロナウイルス感染症（季節性の疾患）の動向を見ることで、地域の医療機関のひっ迫状況を把握したい。

1. 対応する帳票メニュー

「[2414] 受診動向のヒートマップ」

2. 分析ツール（re:Health）の操作手順

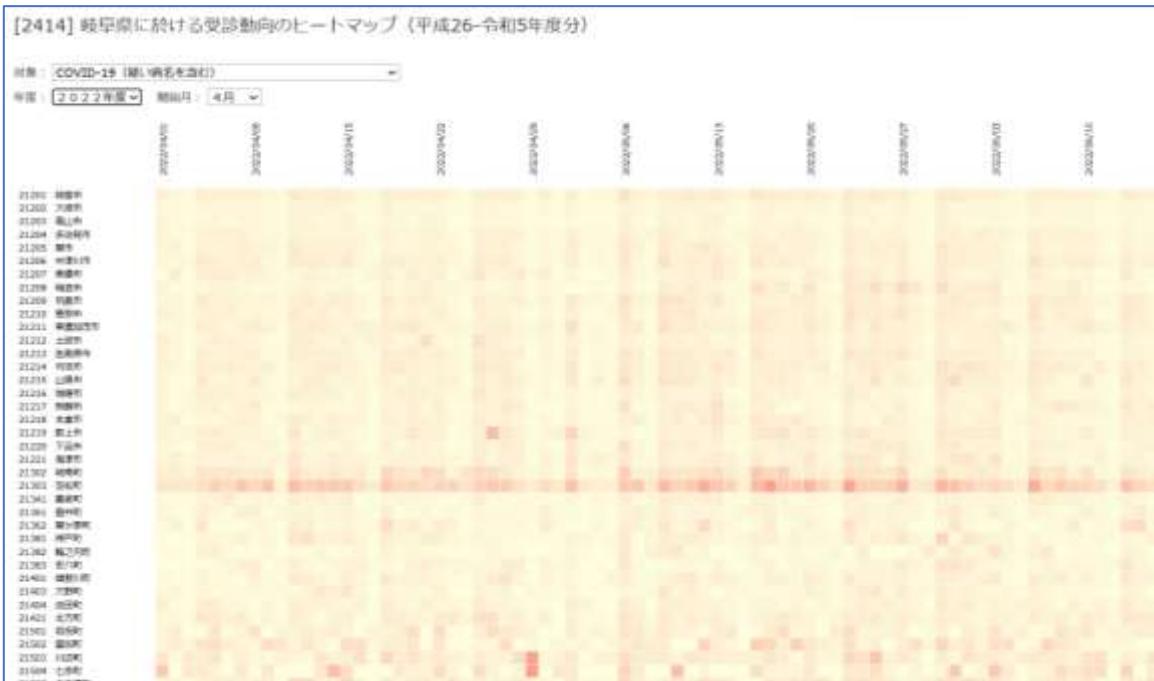
「メインメニュー→「アプリ No [2414]」を選択（クリック）
→「対象疾患」欄で「C O V I D-19（疑い病名を含む）」をプルダウンで選択
→「年度」欄で「2 0 2 2 年度」等をプルダウンで選択
→同条件で「年度」欄を「2 0 2 3 年度に」に変更
→2 0 2 2 年度と 2 0 2 3 年度の前後を（経年）比較
→必要に応じて、「対象疾病」をプルダウンで任意の疾病に変更

※ 操作方法の詳細については、令和 6 年 11 月 13 日～12 月 23 日開催「医療費等分析（見える化）ツールの活用支援事業における市町村等対象（5 圏域）研修会及び意見交換会」で提供している資料 No.2 「「岐阜ヘルスアップ（分析ツール）」の操作及び活用方法」を参照

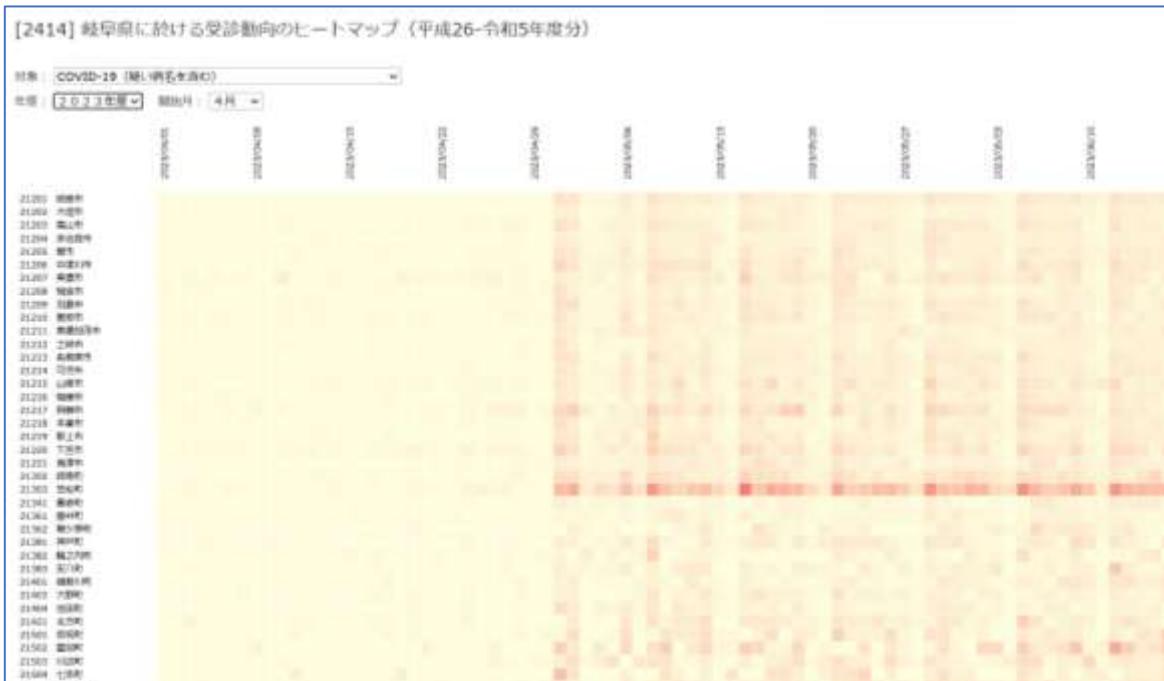
3. 知りたいことに対する結果

＜画面イメージ＞

令和4年度の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の受診動向のヒートマップ



令和5年度の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の受診動向のヒートマップ



上記の図で、令和4年度と令和5年度の受診動向をヒートマップで比較した結果、新型コロナウイルス感染症については患者数が全体的に減少していることが、色の濃淡で把握できた。

年間をとおして常に受診が多い訳ではなく、季節性の疾患における受診動向を把握することで医療機関のひっ迫状態を年間とおして予測することができた。

特定健診の個別健診の実施時期や、行政と地域の医療機関が連携して実施する保健事業について、関係者が診療等のひっ迫した時期を除いて事業計画を行う事で、スムーズに関係機関と調整することができた。

4. 活用した場面（事例）

- ・特定健診（個別健診）の受診率が例年と比べて低かったため、要因分析に使用した。
- ・医療機関の個別健診の実施時期を地域医師会と調整する際に、打合わせ資料の一部に使用した。等

【事例 4】

知りたいこと：保険者努力支援制度に対応した在宅医療の分析結果を見たい。

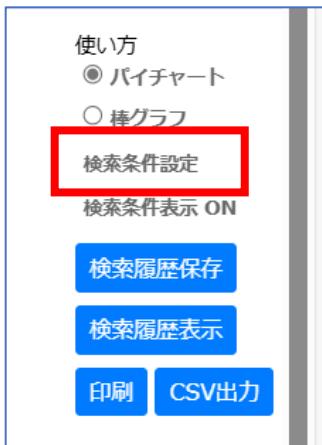
1. 対応する帳票メニュー

「[2105] 在宅医療の動向」

「[2104] 介護利用動向（市町村/介護事業所単位）」

2. 分析ツール（re:Health）の操作手順

「メインメニュー→「アプリ No [2105] 及び [2104]」を選択（クリック）
表示画面右側の検索条件設定をクリックする



以下の「検索条件設定」画面が表示

アプリ No [2105] の検索条件設定画面



- 「データ種別」選択欄で「延べ患者数（外来）」のチェックボックスをチェック（選択）する
- 「年度」選択欄で「令和5年度」等のチェックボックスをチェック（選択）する
- 「後期高齢者医療（在宅医療）」欄で「全て選択」のチェックボックスをチェック（選択）する
- 「被保険者所在地」欄で「岐阜市（当該保険者）」等のチェックボックスをチェック（選択）する
- 「施設所在地」欄で「全て選択」のチェックボックスをチェック（選択）する
- 「決定」ボタンをクリック

アプリ No [2104] の検索条件設定画面

検索条件設定

データ種別

延べ患者数

年度

令和5年度

後期高齢者医療（在宅医療）

全て選択

被保険者所在地

岐阜市 (当該保険者)

施設所在地

全て選択

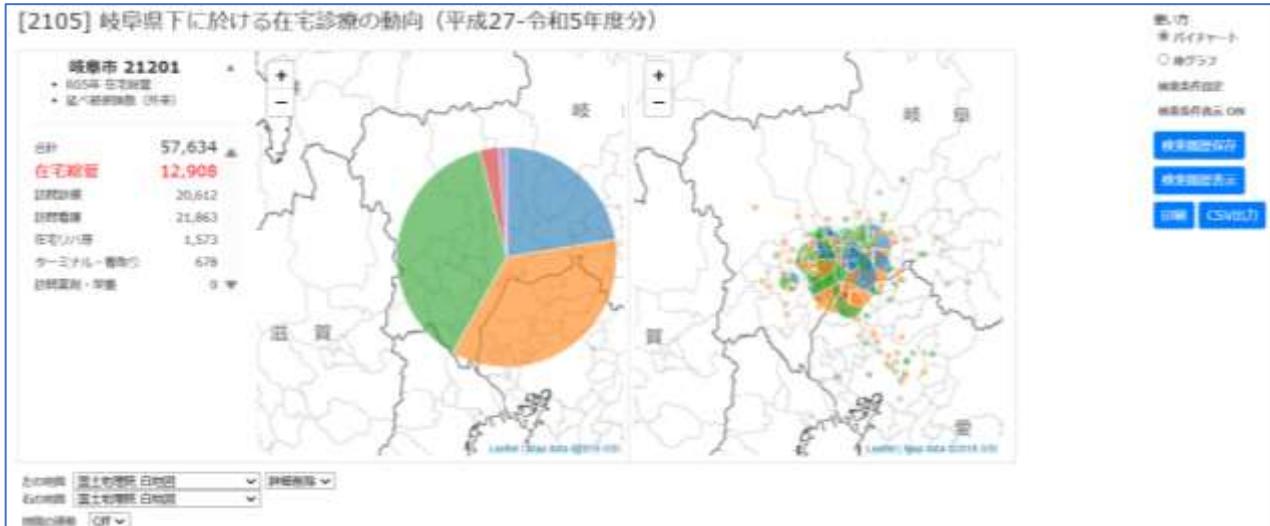
決定

- 「データ種別」選択欄で「延べ回数」のチェックボックスをチェック（選択）する
- 「年度」選択欄で「令和5年度」等のチェックボックスをチェック（選択）する
- 「介護」サービス選択欄で「全て選択」のチェックボックスをチェック（選択）する
- 「被保険者所在地」欄で「岐阜市（当該保険者）」等のチェックボックスをチェック（選択）する
- 「施設所在地」欄で「全て選択」のチェックボックスをチェック（選択）する
- 「決定」ボタンをクリック

3. 知りたいことに対する結果

＜画面イメージ＞

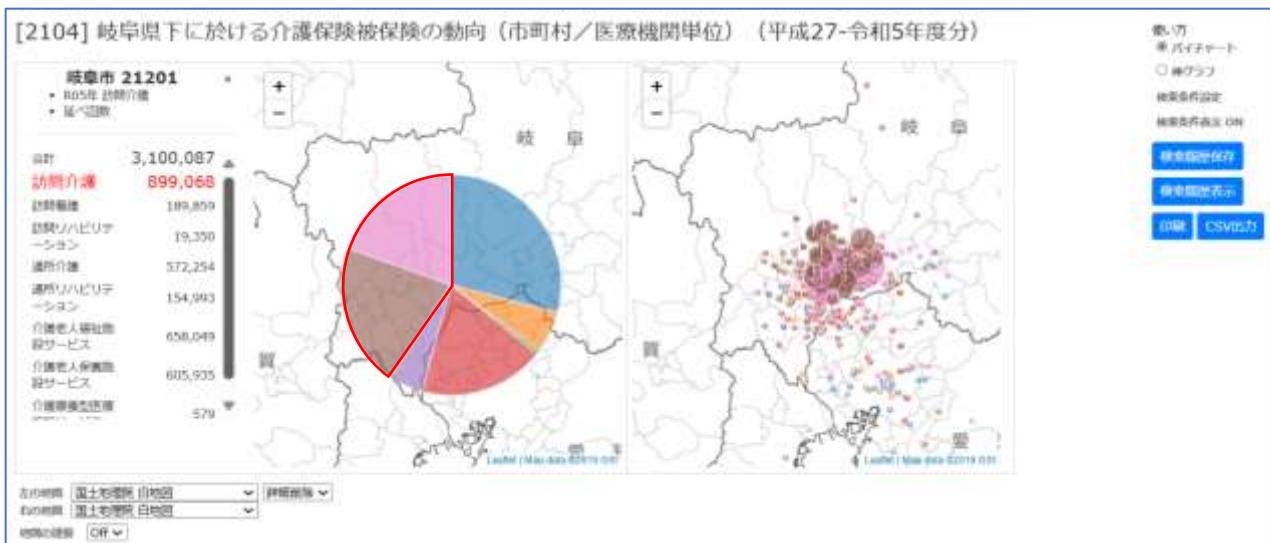
令和5年度在宅医療の受診動向



同条件で他市町村と比較したりすることで、在宅医療の診療行為毎の受診動向が見える化出来ると共に、その診療行為に対して、どこの医療機関が対応しているかが把握できる。

事例の岐阜市の被保険者については、おおむね岐阜市内在宅医療が対応できているが、周りの市町村（愛知県）にも受診が流れている様子が把握できた。

令和5年度介護サービスの利用動向



同条件で他市町村と比較したりすることで、介護サービス毎の受給動向が見える化出来ると共に、その介護サービスに対して、どこの介護保険事業所が対応しているかが把握できる。

事例の岐阜市の被保険者については、おおむね岐阜市内で介護サービスが提供できているが、周りの市町村（愛知県）にもサービス受給が流れている様子が把握できた。施設サービス（介護老人保健施設、介護療養型医療施設）よりも居宅サービスを利用する方が多い傾向が見られる。

4. 活用した場面（事例）

「保険者努力支援制度（取組評価分）市町村分」において、「地域包括ケアの構築に向けた医療・介護・保健・福祉・住まい・生活支援など部局横断的な議論の場に国保部局として参画し、KDB 等を活用したデータ提供等により地域の課題を共有し、対応策を検討するとともに、地域支援事業に国保部局として参画」することが求められている。

また、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の事業の実施に当たり、国保のデータに加え、後期高齢者医療及び介護保険のデータについても、KDB 等を活用した分析を総合的に実施」することも併せて求められている。

具体的なデータ提供の内容については、厚生労働省から以下の資料が提供されており、その内容に合致したデータ提供が可能となり、全市町村において同制度の加点を獲得することができた。

3. 4つの場面を意識した PDCA サイクルの考え方と展開例

ポイント

- ❖ 在宅療養者的生活の場において、医療と介護の連携した対応が求められる場面（①日常の療養支援、②入退院支援、③急変時の対応、④看取り）を意識した取組が必要である。
 - ❖ 4つの場面ごとの現状分析・課題抽出・目標設定等を行う前提として、地域のめざすべき姿を必ず設定し、その目的を実現するために、達成すべき目標を4つの場面ごとに設定することが重要である。
- ※以降に記載する、4つの場面に示す目標等については、あくまで例示であり、この通りではないので、直感・地域の実情で目的に沿って変更すること。

（1）4つの場面について

- 人生において常に健康状態は変化するが、特に、高齢になると、加齢に伴う心身機能の衰えから、日常生活において、医療や介護が必要となることや、高齢が急変して入院することもある。また、退院後は在宅医療や介護が必要となる場合や、あるいは在宅療養中に容態が急変し、看取りに至ることも想定される。ライフサイクルにおいて、場面毎に必要な医療と介護のサービスの比重は変わるもの、地域において在宅療養者が医療と介護を必要とする場合には、医療と介護が連携し、高齢者が住み慣れた地域で豊かまで生活ができるよう支援していく必要がある。

図 8 高齢者の状態像の変化と出来事のイメージ



指標に対応した連携状況の把握

図 9 在宅医療と介護連携イメージ

在宅医療と介護連携イメージ（在宅医療の4場面別にみた連携の推進）



「在宅医療・介護連携推進事業の手引き Ver.3 P23、24 より」

【事例 5】

知りたいこと：ぎふ・さわやか口腔健診の健診票の様式を岐阜県内統一化し、これまで住民の所在する歯科医療機関でのみ健診受診の対応可としていたが、岐阜県内の市町村を跨いだ健診受診を可能にしたい。取扱いを変更した場合に健診受診率が上がるかどうか検討をするにあたり、歯科診療における受診動向とともに「かかりつけ医による健診の動向」を予測したい。

1. 対応する帳票メニュー

「[2128] 歯科の受診動向」

2. 分析ツール（re:Health）の操作手順

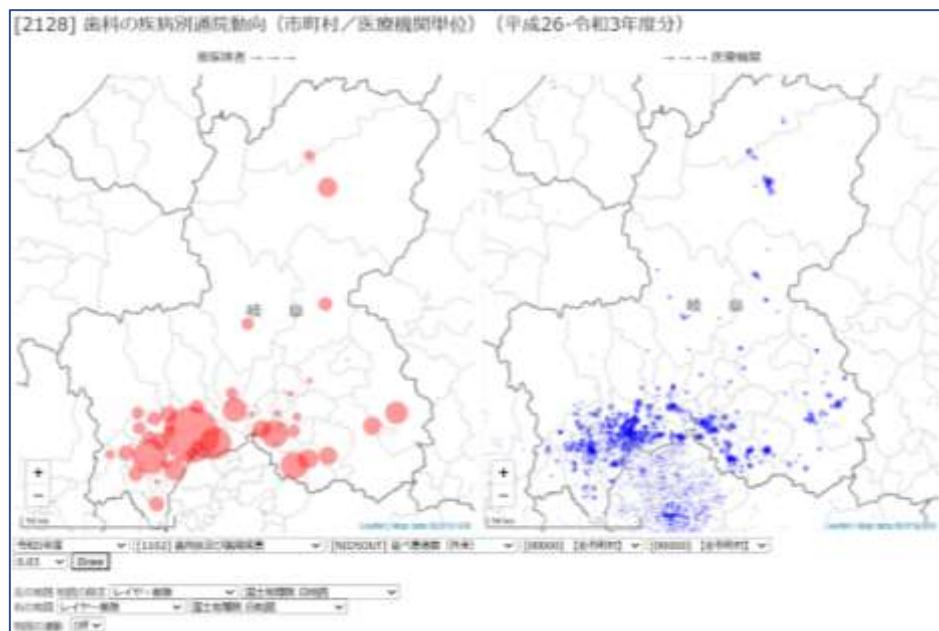
- 「メインメニュー→「アプリ No [2128]」を選択（クリック）
- 「年度」欄で「令和 5 年度」等をプルダウンで選択
- 「対象疾患」欄で「歯肉炎及び歯周疾患」等をプルダウンで選択
- 「集計する値」選択欄で「延べ患者数（外来）」をプルダウンで選択
- 「左側マップ（住民の状況）の市町村」選択欄で「全市町村」をプルダウンで選択
- 「右側マップの市町村（住民の受診状況）」選択欄で「全市町村」をプルダウンで選択
- 「Draw」ボタンをクリック
- 必要に応じて、「左側マップ（住民の状況）の市町村」選択欄を「個別市町村（今回は八百津町を選択）」に変更
- 必要に応じて、「対象疾病」をプルダウンで任意の疾病に変更
- 「Draw」ボタンをクリック

※ 操作方法の詳細については、令和 6 年 11 月 13 日～12 月 23 日開催「医療費等分析（見える化）ツールの活用支援事業における市町村等対象（5 圏域）研修会及び意見交換会」で提供している資料 No.2 「「岐阜ヘルスアップ（分析ツール）」の操作及び活用方法」を参照

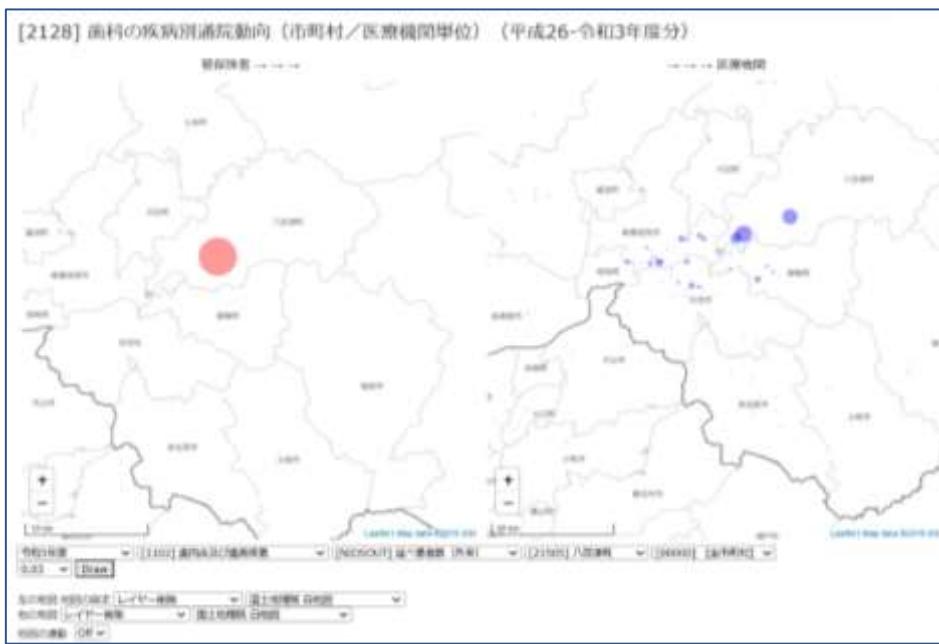
3. 知りたいことに対する結果

＜画面イメージ＞

岐阜県全体における令和5年度の歯肉炎及び歯周疾患の受診動向



八百津町における令和5年度の歯肉炎及び歯周疾患の受診動向



上記の図で、令和5年度の歯科診療に関する受診動向を確認した結果、基本的には岐阜県内の歯科医療機関にほとんどの被保険者は受診しているが、県内で受診動向に散らばりがある（地域によって市町村を跨ぐ事象もありそう）。歯科医療機関が少ない八百津町を選択して確認した結果、町外で歯科受診をしている患者が多い傾向がある。

4. 活用した場面（事例）

- ・岐阜県が主体的に実施する「成人・高齢者の口腔健診結果を活用したオーラルフレイル対策推進事業」において、岐阜県歯科医師会と岐阜県後期高齢者医療広域連合が「ぎふ・さわやか口腔健診」の適用市町村の範囲を検討する際、参考資料として使用した。
→令和6年度よりぎふ・さわやか口腔健診の県内における請求方法を統一化すると共に、市町村を跨いだ（かかりつけ医による）健診受診を認める方法に変更された。
- ・個別市町村において、地域の歯科医師会と歯科口腔健診の事業実施に関する調整をおこなう際、現状把握のための情報提供として資料に使用した 等

【事例 6】

知りたいこと：今後進められる中核病院の再編統合等にともない、医療供給体制を維持していくために市町村を跨いだ地域による医療連携体制を強化していきたい。医療供給体制の現状把握と共に医療・介護連携の状況を把握したい。

1. 対応する帳票メニュー

「[2110] 医療機関等訪問軌跡の動向」

2. 分析ツール（re:Health）の操作手順

「メインメニュー→「アプリ No [2110]」を選択（クリック）
→「年度」欄で「令和4年度」等をプルダウンで選択
→「対象疾患」欄で「胃の悪性新生物」等をプルダウンで選択
→「市町村」選択欄で「個別市町村（今回は岐阜市を選択）」をプルダウンで選択
→「連携機関」選択欄で「医療機関のみ」をプルダウンで選択
→「Draw」ボタンをクリック
→必要に応じて、「連携機関」選択欄を「医療機関と薬局と介護施設」に変更
→「Draw」ボタンをクリック

※ 操作方法の詳細については、令和6年11月13日～12月23日開催「医療費等分析（見える化）ツールの活用支援事業における市町村等対象（5圏域）研修会及び意見交換会」で提供している資料No.2「岐阜ヘルスアップ（分析ツール）」の操作及び活用方法」を参照

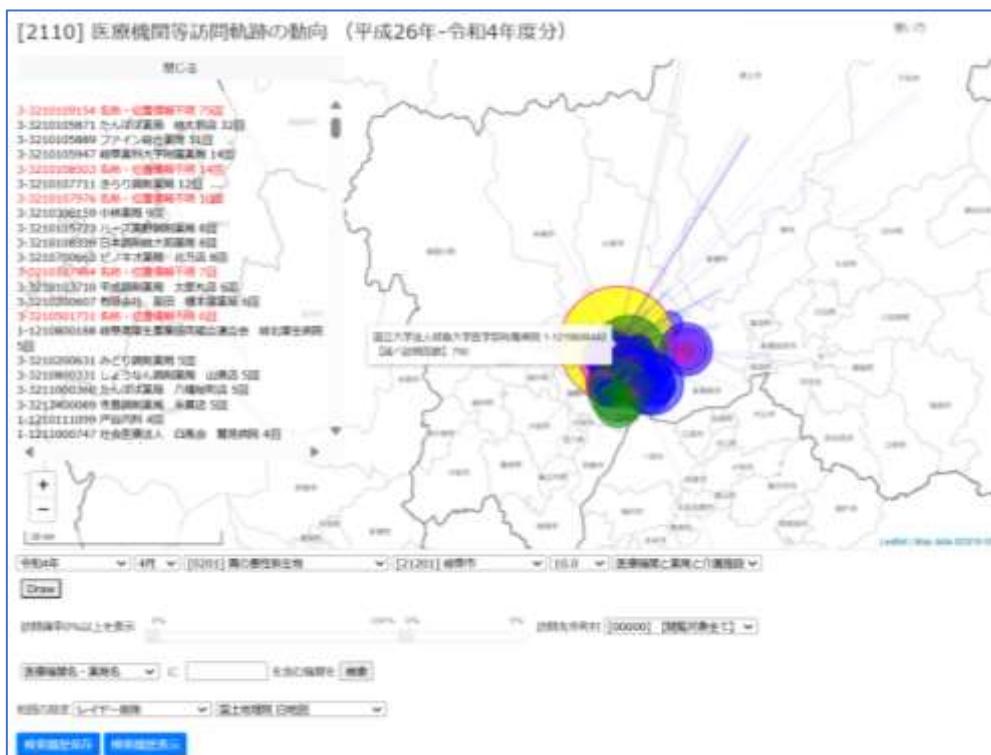
3. 知りたいことに対する結果

＜画面イメージ＞

岐阜市における令和4年度の医療機関等訪問軌跡の動向（医療機関のみ）



岐阜市における令和4年度の医療機関等訪問軌跡の動向（医療機関と薬局と介護施設）



上記の図で、医療機関、調剤薬局、介護保険施設との訪問（行き来）がある場合、円の大きさで人数が表記されます。

ピンクの円が医療機関を表しており、青の円が介護施設、緑の円が調剤薬局を表しています。

医療機関（今回の事例では「岐阜大学附属病院」を選択）の位置をクリックする（色が黄色に変化する）と、当該医療機関と行き来しているその他の機関が放射線状に結ばれて（訪問頻度が高いほど線が太く表示）表示されます。

岐阜大学付属病院の胃の新生物（癌含む）の治療やその後の調剤、介護サービス等の連携について、とても多くの関係施設と県又は市町村を跨ぐ広い範囲で被保険者が行き来していることがわかった。

他県との連携においては、愛知県との行き来が多い傾向がある。

4. 活用した場面（事例）

- ・地域包括ケアの視点で、連携している関係機関の現状分析に使用した。
- ・医療供給体制の維持のため、市町村を跨いだ圏域での医療連携等の調整資料に使用した。

～おわりに～

本事業は、岐阜県健康福祉部国民健康保険課からの業務委託により、医療経済研究機構と東京大学生産技術研究所のご協力のもと、平成30年度から継続的に実施してきました。

毎年、管内5圏域において研修会及び意見交換会を実施しておりますが、保健事業の取組みにおける課題やデータ分析に関する課題について、ご意見・ご要望をお聞きする良い機会となっております。

各種分析（現状分析、事業評価）についても、今回提供している分析ツールに限らず「国保データベース（KDB）システムやKDB補完システム等様々なツールを使いこなす事が難しいため、分析の手法を教えてほしい。」という意見を多くいただきます。

本会担当部署として日頃から感じているのは「保健事業の取り組みに関する課題については、住民の一番近くで直接実務にあたっている現場の皆様の中にこそ、課題解決のヒントは隠れている」ということです。

システムやツールの技術的な支援は本会で出来る限り実施していきたいと考えておりますが、各保険者における「住民との関わりの中で、こんなことが考察されるのでデータから証明したい。」という“現場からの視点”については、逆に本会に教えていただけたら幸いです。

そうしたものの蓄積が今回取りまとめた事例集のような形となり、他者から見て参考となる好事例になっていくものと考えます。

引き続き、本会の実施する保険者支援事業についてご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

岐阜県国民健康保険団体連合会健康推進課

